

Chilled & Frozen Logistics Holdings Co., Ltd.

第9期 中間報告書

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

株式会社C&Fロジホールディングス



C&F LOGISTICS



証券コード：9099

持続可能な低温食品物流の実現に向けた成長



代表取締役
社長執行役員 綾 宏將

Q 食品物流業界を取り巻く環境と 当期の業績について教えてください

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会活動が本格的に再開してまいりました。一方で、不安定な国際情勢等を背景とした原材料・エネルギー価格の高止まりや、円安の長期化、人件費の高騰等に伴う継続的な物価上昇の中、個人消費は伸び悩み、景気は依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが主軸をおく低温食品物流業界におきましては、食品メーカーを中心にコスト増加に対応した価格転嫁が進捗するなか、消費者においては節約志向や選別消費の傾向が強まり、冷凍冷蔵食品の取扱量は伸び悩みの状況が続いているものの、人流の活性化に伴い、業務用食品の取扱量は回復傾向にあります。

このような社会・経済環境の変化を踏まえ、当社グループは、2022年4月より第三次中期経営計画（2022年度～2024年度）をスタートいたしました。基本方針として「新たなコールドチェーンのニーズをつなぐ持続可能な低温物流の実現」を掲げ、成長著しいEC関連物流や医薬品物流といった新規事業の拡大、新規拠点の設立をはじめとした既存物流事業の強靱化に取り組んでまいりました。

また、低温商材の流通チャネルの多様化などの環境変化を踏まえ、2023年6月16日に開示しましたとおり、第三次中期経営計画（2022年度～2024年度）につきまして、2025年度を最終年度とする3カ年計画として見直しを実施いたしました。当社グループが誇るチルド・フローズンの物流機能を通じ、食のライフラインの維持と豊かな社会の実現を達成するための各種施策の展開は当初計画通り継続しつつ、以下の項目を重要施策として追加し、これらを実現するために、今後100億円の追加投資を実施してまいります。

- ① サステナビリティ関連として、環境対策に資する新技術の開発とその導入及び省力化・省人化による生産性の向上にかかる投資
- ② 成長分野（海外・EC・医薬品等）における投資の促進や他社との協業・提携なども視野に入れた成長スピードの加速
- ③ 既存事業の強靱化に資するM&Aなどを活用した更なる収益力の強化と事業の拡大

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、営業収益は58,387百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は2,939百万円（前年同期比11.7%増）、経常利益は3,127百万円（前年同期比5.8%増）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、2,114百万円（前年同期比6.5%増）となりました。

Q 今後の見通しについて教えてください

当社は最近の業績動向を踏まえ、2023年10月13日に2024年3月期の業績予想を上方修正いたしました。連結営業収益は、新規業務の受注により前回発表（2023年5月9日）より微増となる見込みであります。利益面では、エネルギーコストの高止まりは当初の想定を下回って推移したこと、またメーカーによる車両の供給体制に起因する償却費の減少も続いており、各コスト減少を織り込んだことにより、各段階における利益額を増額修正いたしました。

以上のことを踏まえ、2023年3月期の連結業績につきましては、営業収益117,000百万円、営業利益4,300百万円、経常利益4,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,000百万円を見込んでおります。

Q 配当の考え方について教えてください

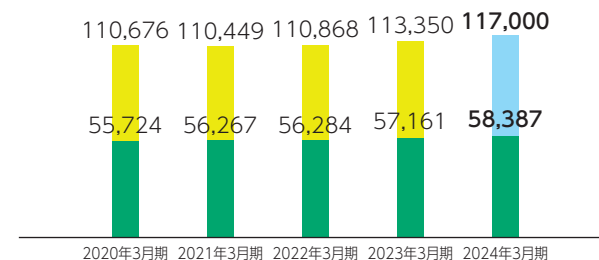
当社は、株主還元施策を含む財務戦略を経営の基本戦略及び重要施策として認識しており、第三次中期経営計画においてはROE 8%以上を定量的な目標として株主価値向上に向けた機動的な株主還元施策を実施する方針としております。利益配当につきましては、短期的には配当性向20%以上を基準として決定し、中長期的には30%以上を基本方針としております。

この方針のもと業績予想の修正を踏まえ、当期の配当につきましては、1株当たりの年間配当金は34円00銭（中間配当17円00銭、期末配当17円00銭）を計画しております。

連結財務ハイライト

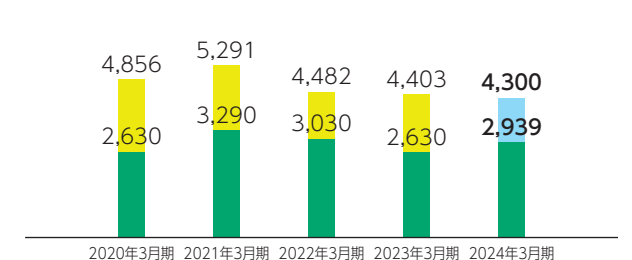
営業収益 (単位: 百万円)

■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し

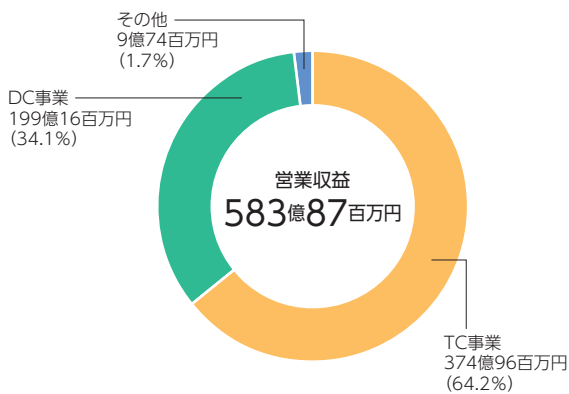


営業利益 (単位: 百万円)

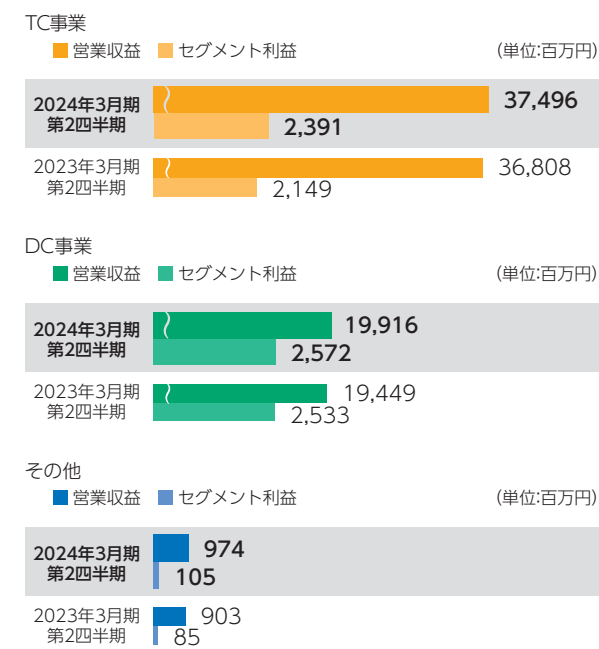
■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し



セグメント別営業収益構成比



セグメント別業績推移



TC事業（通過型センター事業）

事業内容

主にチルド食品を中心とした低温食品の物流センター運営と冷蔵車両による輸配送を行う事業。受注から納品までの時間が短く様々な時間帯に対応するため、365日24時間体制で運営しております。

チルド食品は、商品の入庫から出庫までの保管期間が短く、預かり在庫をほとんど持たない（≒通過型）事業モデル。

業績概要

コンビニエンスストアや量販店におけるチルド食品の取扱物量の回復は限定的であったものの、コストアップに応じた適正料金の収受に加え、新規業務の獲得やEC関連物流業務の拡大により、営業収益は37,496百万円（前年同期比1.9%増）となりました。セグメント利益につきましては、従業員の処遇改善や正社員化促進ならびに人員確保を背景とした労務費の増加や、燃油単価の高騰による燃料費の増加があったものの、車両メーカーの供給体制に起因する買い替えの遅延などが営業原価の上昇を抑制したこと、また新規業務を含めた収益性の高い業務の推進が利益を押し上げたことで、2,391百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

営業収益

374億96百万円

セグメント利益

23億91百万円



DC事業（保管在庫型物流事業）

事業内容

主に冷凍食品の保管・荷役及び輸配送を一体的に行う事業。当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うとともに、冷凍車両による輸配送業務を行っております。

冷凍食品は、保管期間が長く、預り在庫を持つ（≒保管型）事業モデル。

業績概要

市販用冷凍食品の物量が低調に推移したことならびに一部取引先の物流再編の影響による減収要因はあったものの、業務用冷凍食品の物量回復や、コストアップに応じた適正料金の収受、前期中に稼働開始した物流施設における物量増加により、営業収益は19,916百万円（前年同期比2.4%増）となりました。セグメント利益につきましては、人員確保に伴い労務費が増加したものの、電力契約変更などによる動力費の減少が利益を押し上げ、2,572百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

営業収益

199億16百万円

セグメント利益

25億72百万円



その他

事業内容

警備業法に基づく、首都圏の金融機関で取り扱う現金・貴重品・手形等の重要書類の配送、病院向けリネン類の集荷配送、在宅介護用品の宅配、物流事業者向けの乗務員・倉庫オペレーター・事務員等の人材派遣、当社グループならびに取引先の保険代理店業務、保育事業等を行っております。

業績概要

警備輸送業・病院等関連物流業・人材派遣業・保険代理店業等により営業収益は974百万円（前年同期比7.9%増）、セグメント利益は105百万円（前年同期比23.4%増）となりました。

営業収益

9億74百万円

セグメント利益

1億5百万円

第三次中期経営計画の見直し

低温商材の流通チャネルの多様化などの環境変化を踏まえ、2023年6月16日に開示しましたとおり、第三次中期経営計画（2022年度～2024年度）につきまして、2025年度を最終年度とする3カ年計画として見直しを実施いたしました。

ポイント①

新技術開発・環境対策に資する投資の拡充

サステナブル経営の推進

ポイント②

成長分野への投資促進による成長スピードの加速

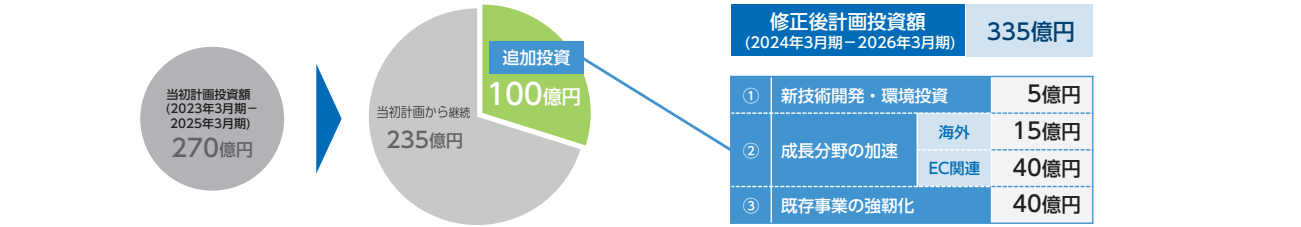
持続的な成長市場への投資拡充

ポイント③

既存事業の強靱化に資する更なる収益力の強化と事業の拡大

内部的成長 × 外部資源による成長

▶ ポイント①～③を踏まえ、100億円の追加投資を実行し、基本方針である『新たなコールドチェーンのニーズをつなぐ、持続可能な低温物流の実現』を推進する。



財務目標値の見直し 収益基盤の強化及び最適な資本構成の実現

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
連結営業収益 (百万円)	112,800	114,600	118,800
連結営業利益 (百万円)	5,060	5,100	5,500
ROE	8.0%以上		
自己資本比率	45%程度		
配当性向	20%以上		
設備投資額 (百万円)	27,000		

	2024年3月期 (予想)	2025年3月期 (目標)	2026年3月期 (目標)
連結営業収益 (百万円)	117,000	118,700	122,400
連結営業利益 (百万円)	4,300	4,700	5,700
ROE	最終年度までに8.0%以上		
自己資本比率	45%程度		
配当性向	20%以上 (段階的に30%以上へ引き上げ)		
設備投資額 (百万円)	33,500		

詳細はこちら

https://www.cflogi.co.jp/uploads/the_revision_of_3rd_Medium-term_Management_Plan_JP.pdf

物流の2024年問題への取り組み事例

「2024年問題」では、トラックドライバーに対する働き方改革関連法の適用開始に伴い、時間外労働の制限が厳しくなることで輸送力不足となり、物流の停滞や混乱が起こることが懸念されております。そのような危機を回避すべく、当社グループではさまざまな施策に取り組んでおります。

Action

トラック予約受付システムの導入
タイムロスをなくす

トラックドライバーの長時間労働の要因のひとつが、集荷や納品の際に発生する物流倉庫での「荷待ち時間」です。これまで物流倉庫への入庫作業は受付順に行われていたため、多くのトラックが予定よりも前に到着し、順番を確保するために待機する状況が生じておりました。混雑する時間帯によっては長時間の待機となり、長時間労働の要因になるばかりでなく、倉庫近隣に渋滞を発生させる要因にもなっておりました。この「荷待ち時間」を削減するため、2020年よりトラック予約受付システムの導入テストを行い、2023年10月をもって、㈱ヒューテックノオリンの主要な冷凍倉庫18拠点において、システム導入・本番運用を開始いたしました。

Action

パレット輸送化の推進
効率的につなぐ

パレット輸送では複数の荷物を載せるため、汎用性の高い統一規格のレンタルパレット等を使用します。手荷役が必要な「バラ積み」から、フォークリフトで入庫し、そのまま保管が可能な「パレット積み」に変更することで、荷役に係る労働時間を大幅に削減することができると、物流のパレット輸送化は2024年問題の重要な解決策として位置付けられております。当社グループではパレット輸送を広く導入しておりますが、自動倉庫機能を持つ一部の冷凍倉庫では、専用自社パレットでの運用としているため、入庫時に専用自社パレットへ移し替える手荷役が必要な状況が生じております。そのため、自動倉庫においてもレンタルパレットでの入庫・保管を可能とし、作業負担軽減及び労働時間の短縮を図るべく、現在、各種レンタルパレットでの適合性・安全性・搬入等のテスト、また自動倉庫の改修の取り組みを進めております。

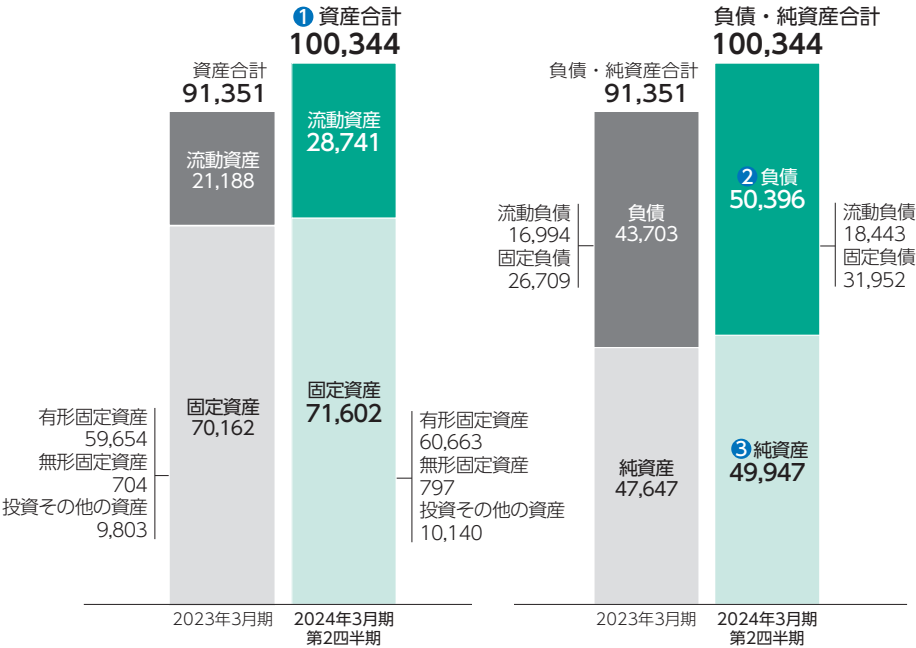
Action

中継輸送の整備
変わらずにつなげる

時間外労働の制限に伴い、1人のドライバーが一度に運べる距離や時間が短くなります。そのため長時間労働を抑制する施策として、長距離輸送を複数のドライバーで分担する中継輸送が必要とされております。当社グループでは、長距離輸送の中継地点となる物流拠点を設けることで、円滑な物流ネットワークの整備に取り組んでおります。2021年9月1日開設のヒューテックノオリン南九州営業所は、既存の九州支店（福岡）と南九州エリアの物流を繋ぎ、輸配送の安定化とドライバーの長時間労働を抑制することを一つの目的として設立された2024年問題対策のモデルケースであります。全国各地の物流ネットワークを途切れることなく繋ぐため、物流拠点の整備に向けて各プロジェクトを立ち上げて推進しております。

財政状態

(単位：百万円)



① 資産

主に、「現金及び預金」、「営業未収金」、「建設仮勘定」の増加。

② 負債

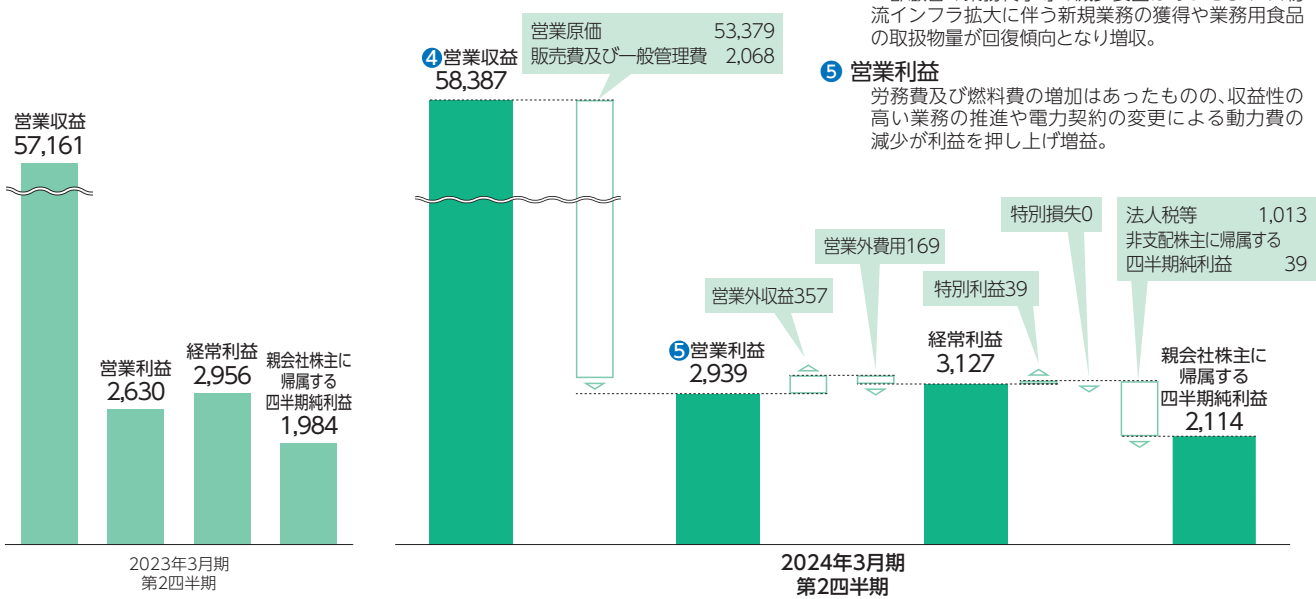
主に、「長期借入金」の増加。

③ 純資産

主に、「利益剰余金」の増加。

経営成績

(単位：百万円)



④ 営業収益

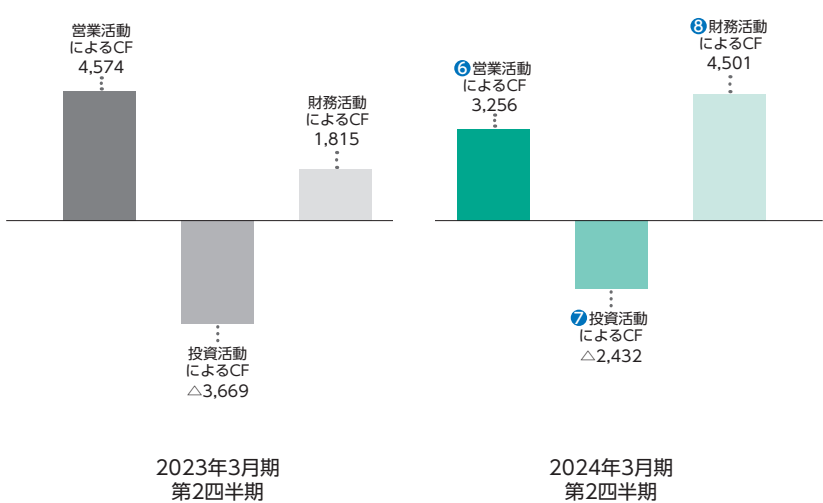
一部顧客の業務終了等の減少要因はあったものの、物流インフラ拡大に伴う新規業務の獲得や業務用食品の取扱物量が回復傾向となり増収。

⑤ 営業利益

労務費及び燃料費の増加はあったものの、収益性の高い業務の推進や電力契約の変更による動力費の減少が利益を押し上げ増益。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に、「税金等調整前四半期純利益」に非資金取引の「減価償却費」を加え、「法人税等の支払額」を差し引いた金額。

⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー

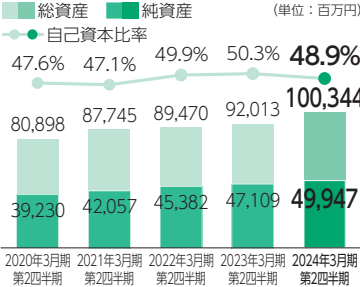
主に、有形固定資産の取得による支出。

⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に、「長期借入れによる収入」から「長期借入金返済による支出」及び「リース債務の返済による支出」を差し引いた金額。

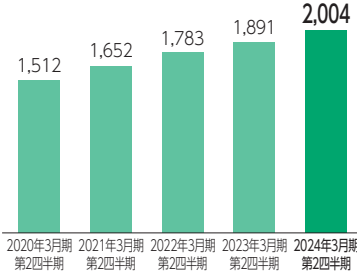
連結財務指標

総資産・純資産・自己資本比率



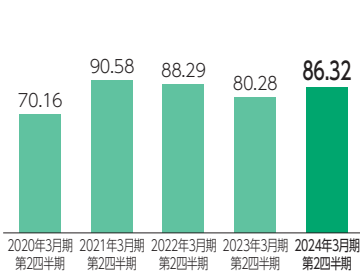
1株当たり純資産

(単位：円)



1株当たり四半期純利益

(単位：円)



会社概要 (2023年9月30日現在)

会社名 株式会社C&Fロジホールディングス
(英文社名) Chilled & Frozen Logistics Holdings Co., Ltd.
設立年月日 2015年10月1日
本店所在地 〒162-0056
東京都新宿区若松町33番8号
Tel. 03-5291-8100 (代表)
事業の内容 貨物運送事業、倉庫事業等を行う傘下子会社及び
グループの経営管理ならびにこれに関連する事業
資本金 4,000百万円
従業員数 166人 (単体) 6,018人 (連結)
(社員・準社員等 合計 11,555人 (連結))

役員 (2023年9月30日現在)

取締役
代表取締役 綾 武 宏 將
代表取締役 藤 彰 市
取締役 矢 宏 郎
取締役 安 徹 市
社外取締役 水 嶋 彰
社外取締役 田 谷 彰
社外取締役 (監査等委員) 中 田 健 一
社外取締役 (監査等委員) 杉 田 伸 充
社外取締役 (監査等委員) 高 木 保 郎
社外取締役 (監査等委員) 舘 羽 史
執行役員
社長執行役員 綾 武 宏 將
専務執行役員 藤 彰 市
常務執行役員 酒 光 修 史
常務執行役員 坂 内 茂 昭
常務執行役員 菅 原 剛 一
執行役員 若 田 部 守
執行役員 山 宮 隆 雄
執行役員 小 山 一 郎
執行役員 坂 井 建 三

株主の状況

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	25,690,766株
1単元の株式数	100株
総株主数	7,842人

大株主の状況 (2023年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,226	9.04
マルハニチロ株式会社	1,718	6.98
協同乳業株式会社	1,491	6.06
農林中央金庫	1,243	5.05
共栄火災海上保険株式会社	1,231	5.00
C&Fロジホールディングス従業員持株会	877	3.56
C&Fロジホールディングス取引先持株会	815	3.31
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	786	3.19
J A三井リース株式会社	746	3.03
和佐見 勝	728	2.96

(注) 1. 持株比率は自己株式 (1,085,700株) を控除して計算しております。
2. 上記の自己株式には、業績連動型株式報酬制度のために設定した、三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行) が所有する当社株式113,800株は含まれておりません。
3. 持株数は千株未満、持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

毎年3月31日 (基準日) 現在の株主名簿に記載または記録された1単元 (100株) 以上を保有していただいている株主様を対象といたします。

株主優待の内容	100株以上	500株未満	500株以上	1,000株未満	1,000株以上



贈呈時期は、新米の収穫時期に合わせて全ての対象株主様に対して毎年10月中旬に発送しております。

株主の皆さまの 声をお聞かせください

コエキク



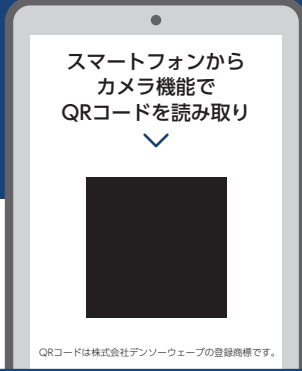
当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスキー入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp> アクセスキー

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp



株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
議決権の基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日及び9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵送物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝日及び12/31～1/3を除く9時～17時)
公告方法	電子公告 (https://www.cflogi.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページのご案内

当社情報は、下記URLでご案内しております。是非ご覧ください。

<https://www.cflogi.co.jp>



株式会社C&Fロジホールディングス

